

現代に紡ぐ農の暮らし

茅ヶ崎市旧矢畑村における農縁リビングの形成と竹造循環型建築の提案

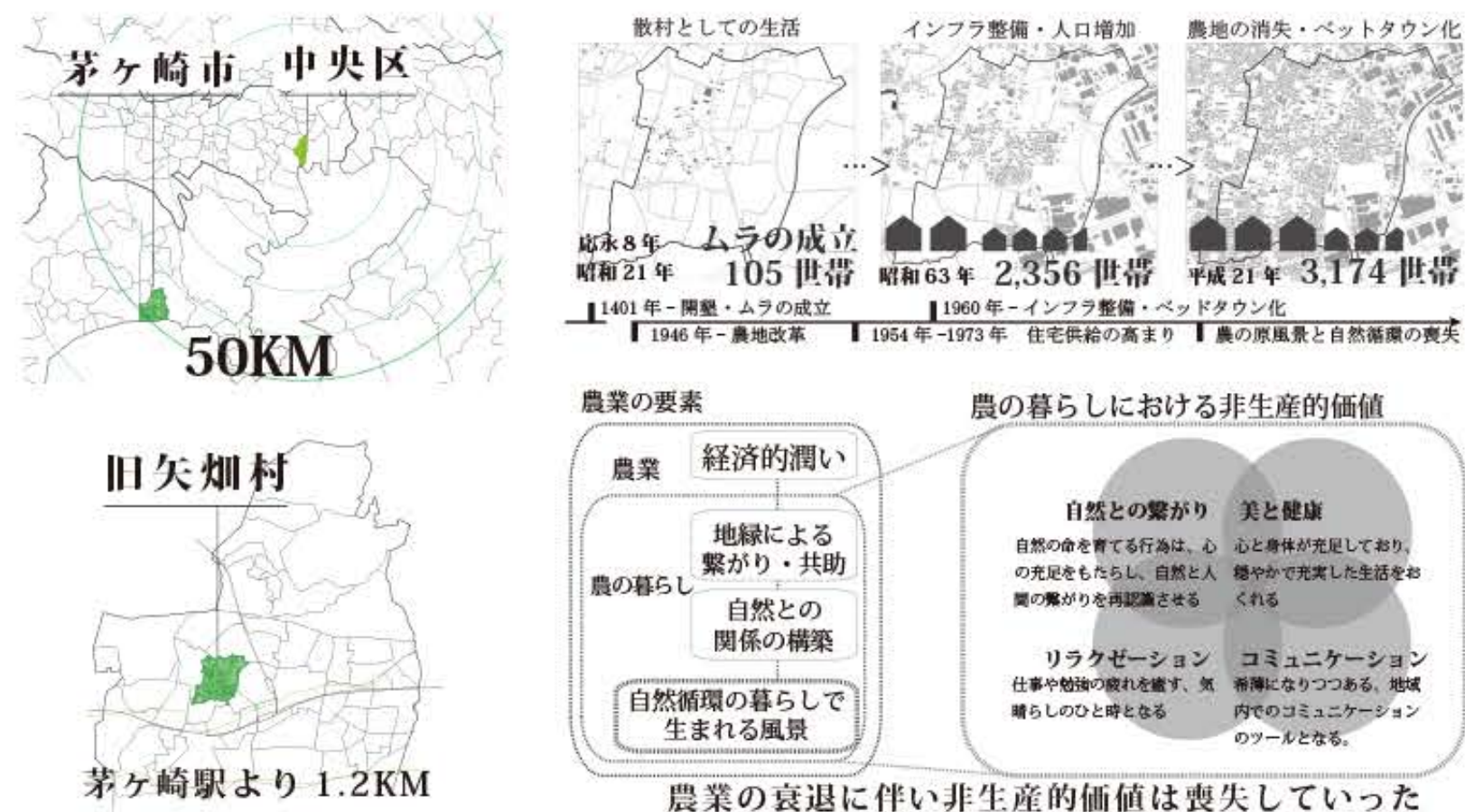
Succeed to an agricultural life for today.

Present proposals for "model of Noen Living" and "cycloid type of bamboo architecture" in old-Yahata, Chigasaki.



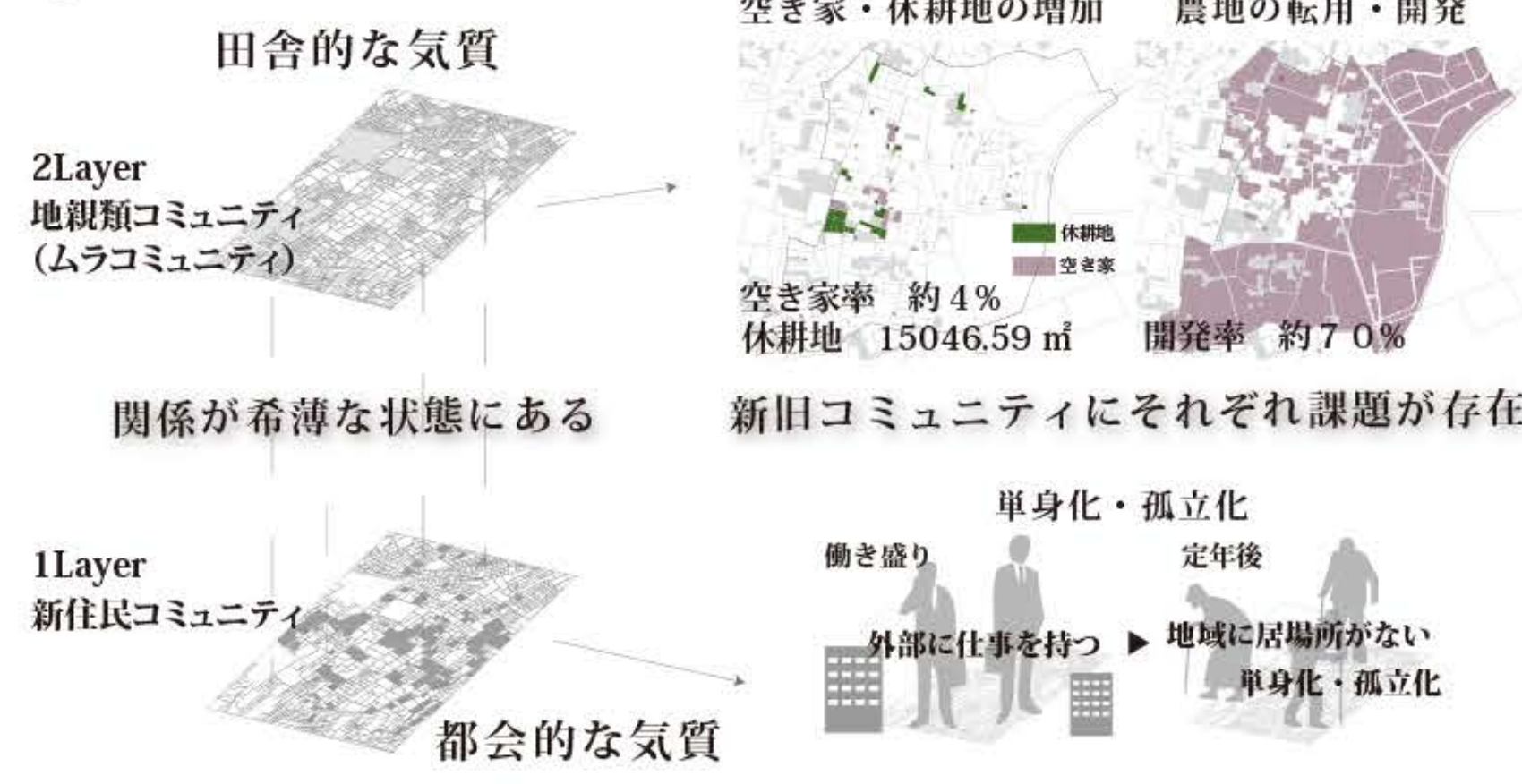
01 茅ヶ崎市旧矢畑村地区における失われた農の暮らし

戦後、都市近郊に位置する茅ヶ崎市旧矢畑村地区では農業の衰退と少子高齢化の進行によって、自然循環と地縁・原風景をはじめとした農の暮らしの非生産的価値は失われてきた。かつての自然循環農業は現代農業に移り変わり、新興住宅地の開発が進行し、現在では地主農家の屋敷林・農地と新興市街地の新旧が混在する街となっている。



02 関係が希薄な新旧コミュニティと地域課題

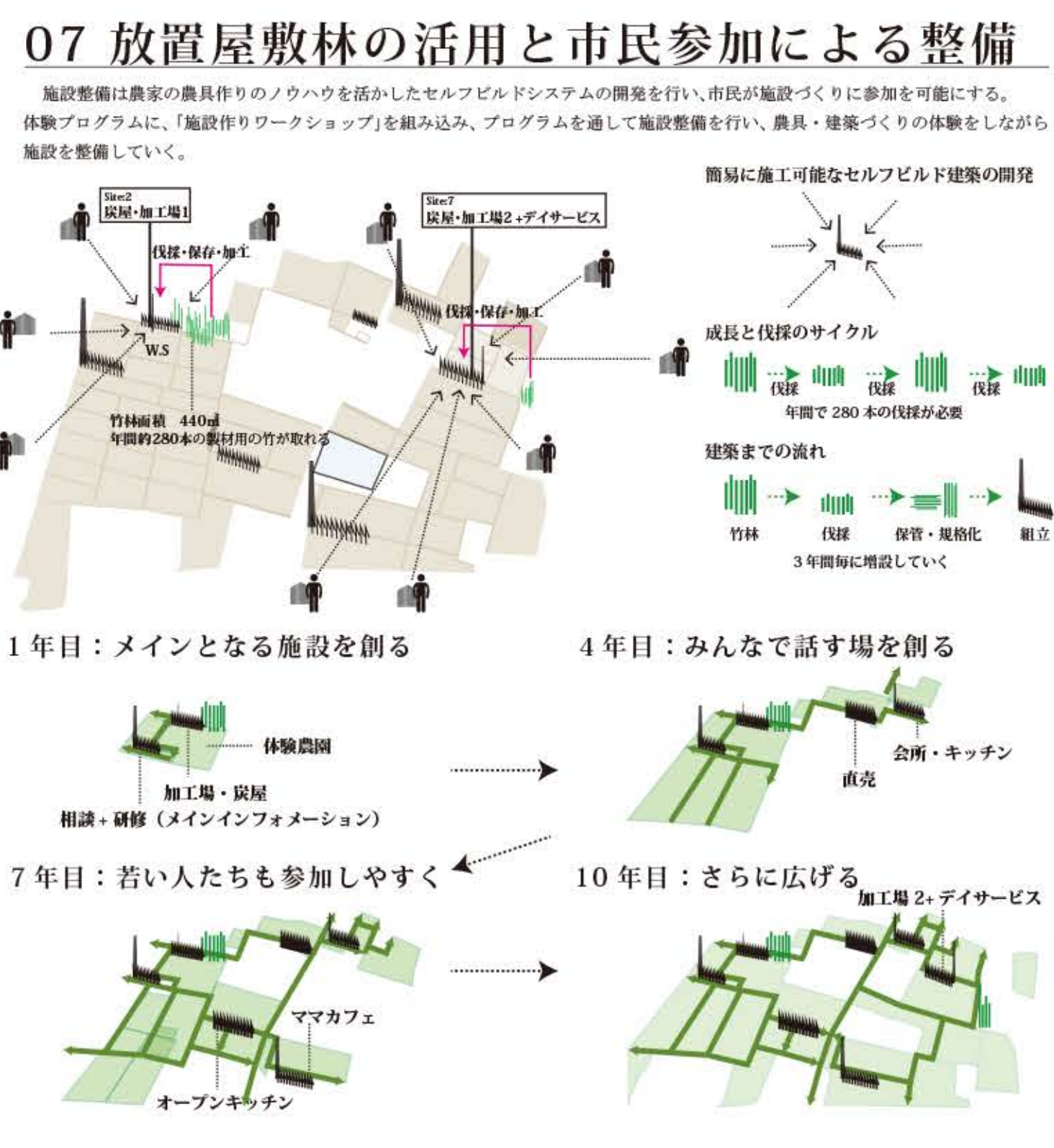
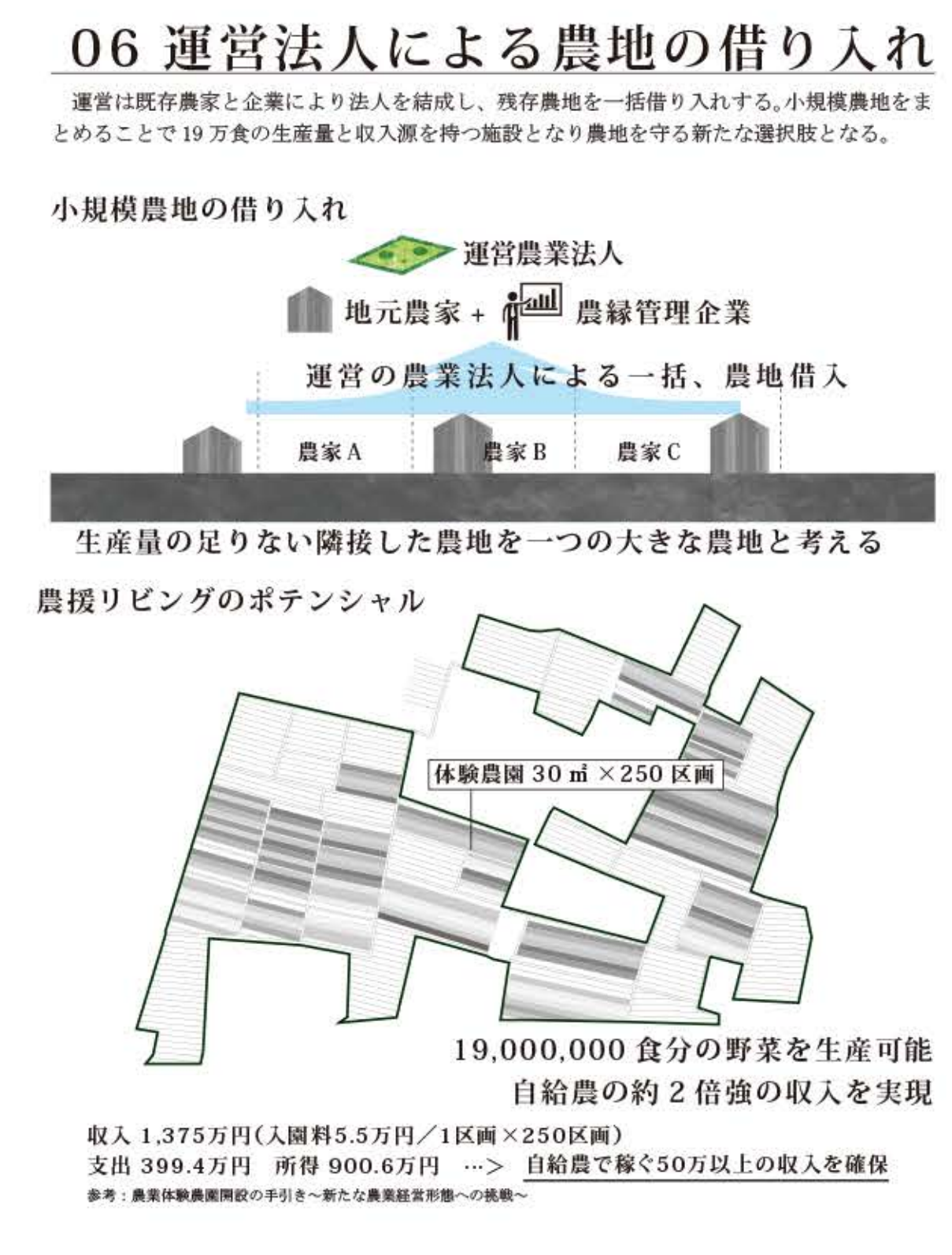
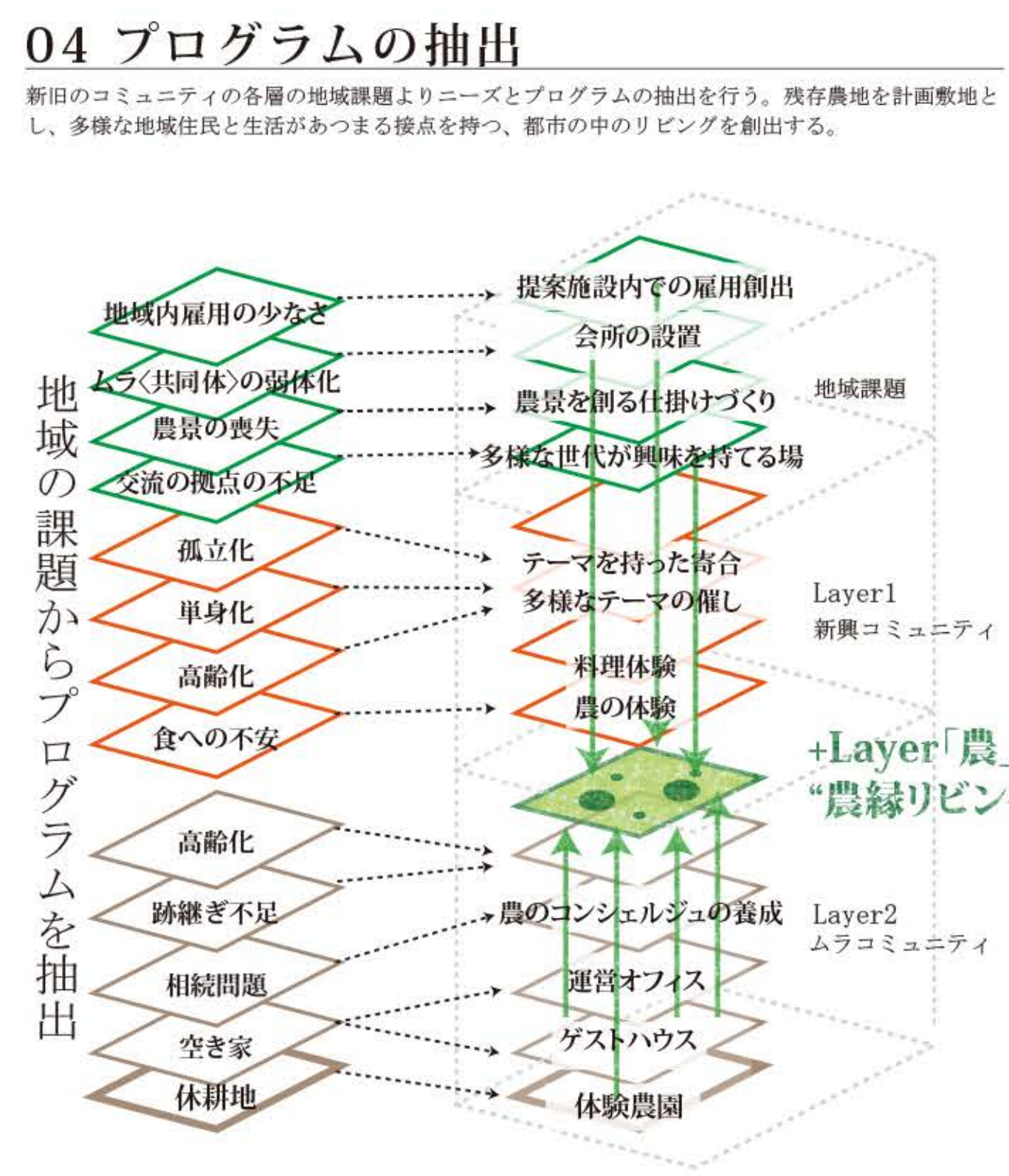
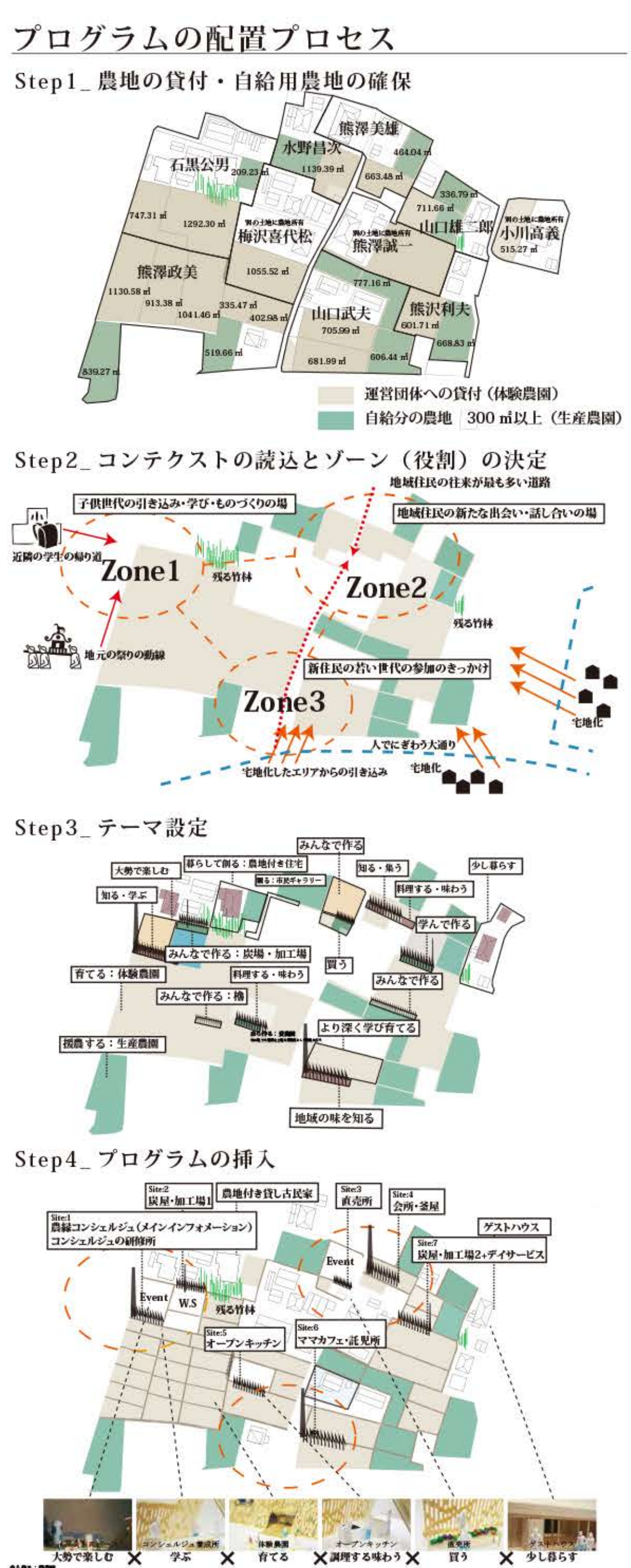
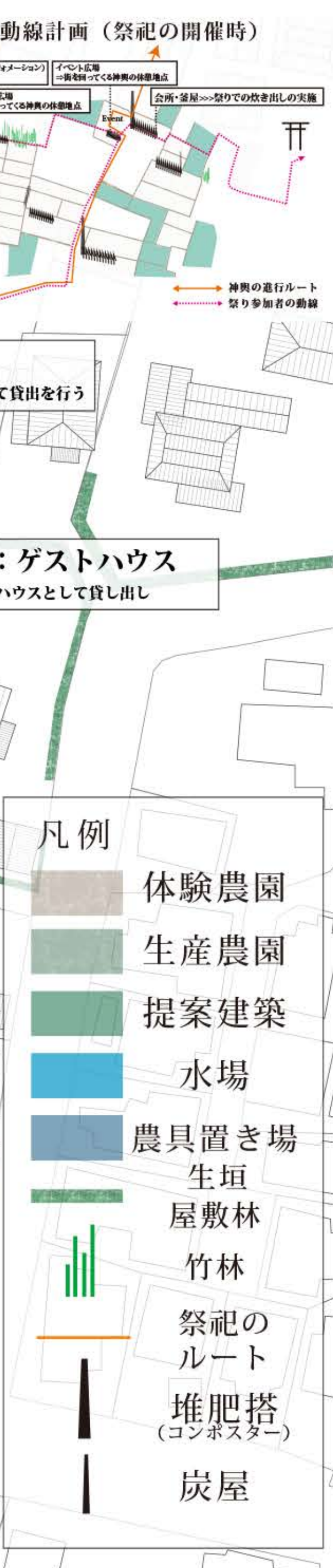
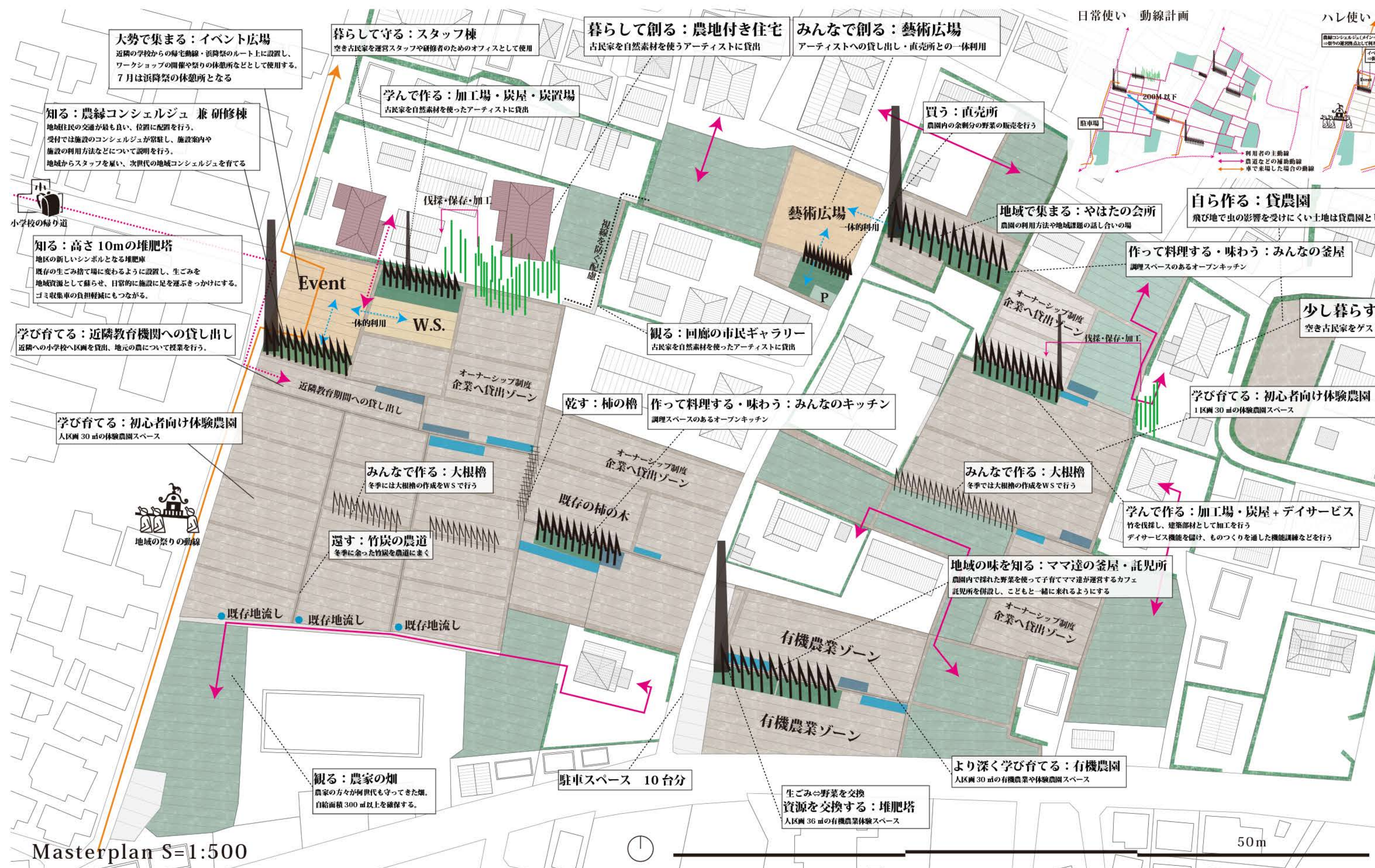
地区内には農村時代の相互扶助関係を持つ地縁が残るが、新住民との繋がりが希薄であるといえる。農業の衰退・少子高齢化の進行により、両者には単身化や孤独化、空き家・休耕地の増加等の問題が発生しており、持続可能なまちづくりが求められている。



03 “農縁リビング”の提案

本修士設計では、既存農地を中心とした周辺街区を活用し、都市における農のある暮らしをテーマに新旧の住民を結びつけ、新たな長寿社会を視野に入れた「地縁」と「価値」を創出する“農縁リビング”の提案を行う。

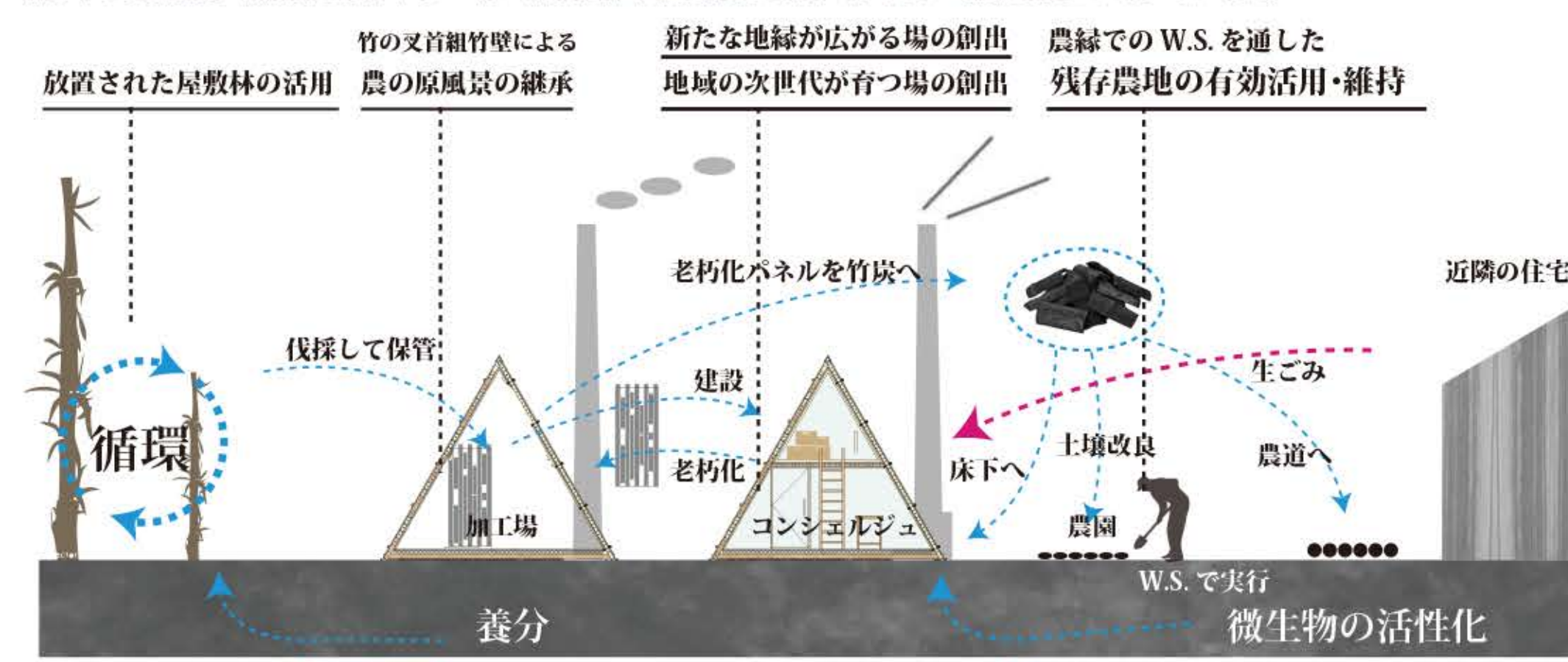






14 結び 新たな縁と農の循環の創出

農園リビングのプログラム提案と竹造循環型建築の提案によって、農村としての記憶を継承しつつも新たな縁と自然循環・農の暮らしが創出される。本提案によって市街化した都市における残存農地の有効利用と地域ストックの活かし、長寿社会の問題を解決させる農のある暮らしの可能性を明らかにすることができた。



農縁リビングにおける竹の循環の風景

